

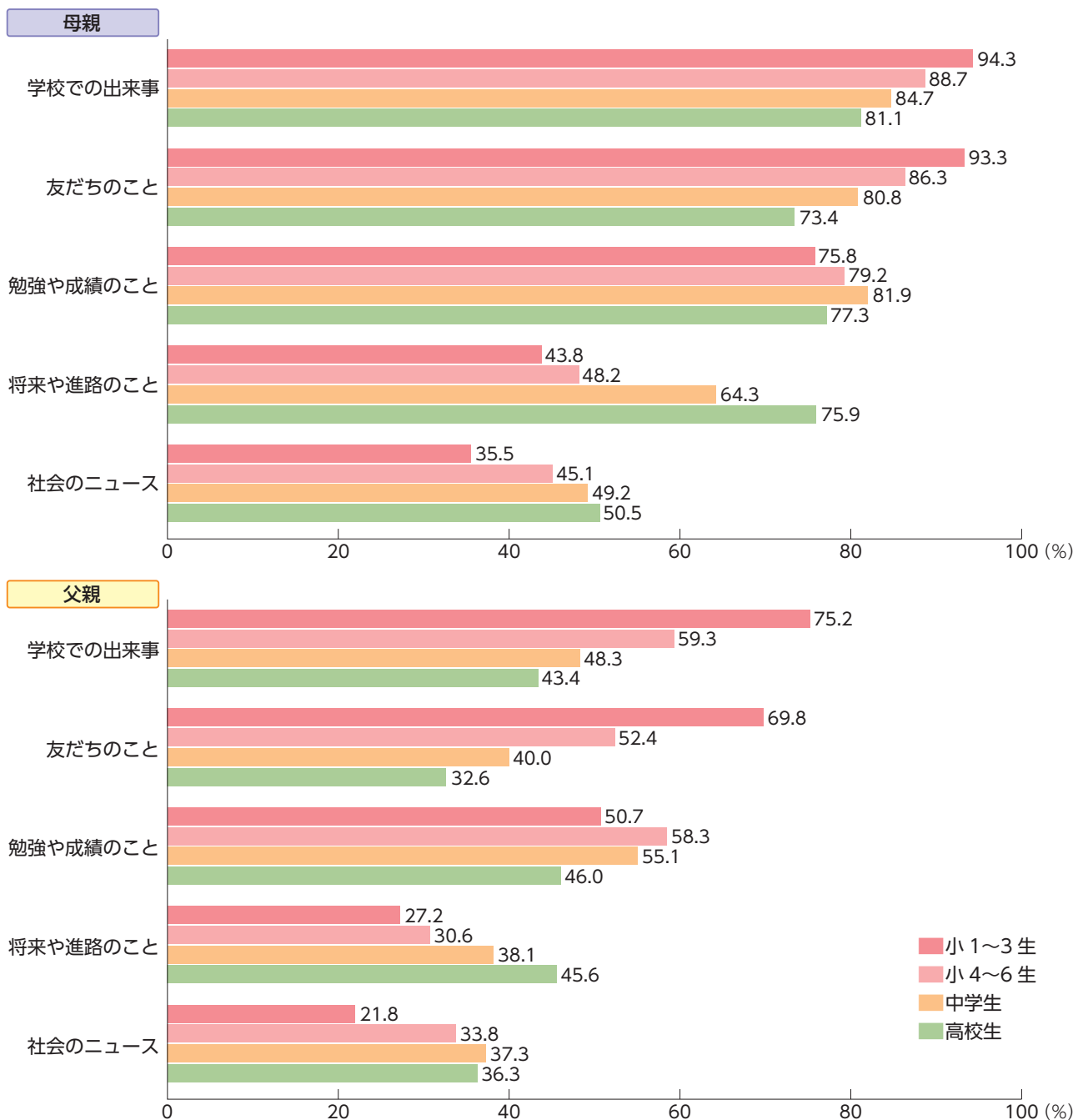
学校段階が上がるにつれて、親子の会話は「学校」や「友だち」の話題に加えて「将来や進路のこと」も増えてくる

どの学校段階でも父親より母親と会話をしている割合が高い。小学生では身近な「学校での出来事」や「友だちのこと」について話す傾向にあるが、学校段階が上がるにつれて、その割合は低くなり、中学生・高校生では「将来や進路のこと」について話す割合が高くなる。「社会のニュース」については学校段階が上がるにつれて話す割合は高まるが、高校生でも母親とは5割、父親とは3割5分にとどまる。「勉強や成績のこと」は学校段階による変化が小さい。



ふだん、お父さんやお母さんと、次のことについてどれくらい話をしますか。

子ども 図3-1 保護者(父母)との会話(学校段階別)



注1 「よく話す」+「ときどき話す」の%。

注2 小1~3生は保護者の回答。

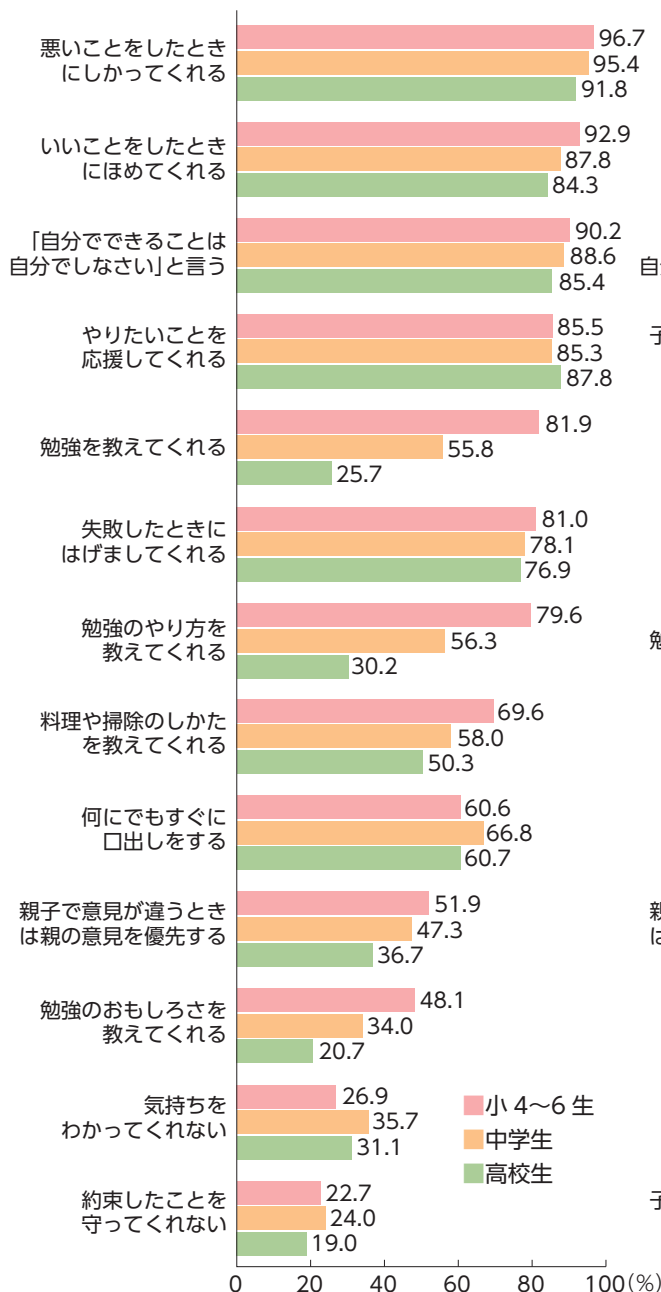
親が思う以上に子どもは親が「勉強を教えてくれる」と感じている

「しかる」「ほめる」「『自分でできることは自分でしなさい』と言う」は、親子とも「あてはまる」（「とてもあてはまる」+「まああてはまる」、以下同様）と回答する割合が高い。しかし、「やりたいことを応援する」「失敗したときにはげます」は、子どもの方が1割程度低い。一方で、勉強関連の3項目（「教える」「やり方を教える」「おもしろさを教える」）は、とくに小学生で子どもの「あてはまる」の割合の方が高く、親が思う以上に子どもは親が勉強を教えてくれると感じている。

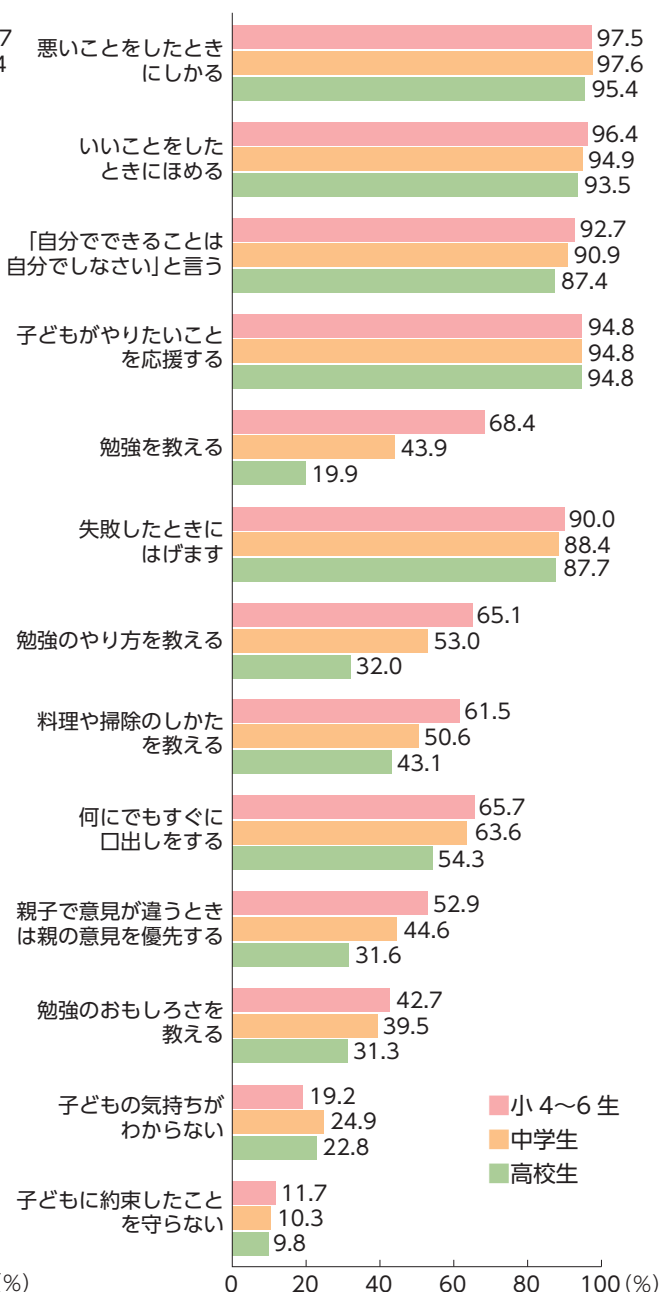
Q お父さんやお母さんについて、次のようなことはどれくらいあてはまりますか。

Q あなたのお子様に対するかかわりについて、次のことはどれくらいあてはまりますか。

子ども 図3-2 保護者(父母)とのかかわり (学校段階別)



保護者 図3-3 子どもとのかかわり (学校段階別)



注1 「とてもあてはまる」+「まああてはまる」の% (図3-2,3)。

注2 「子どもが成長したと感じる」「自分が親として成長したと感じる」は省略した(図3-3)。

③他者とのかかわり

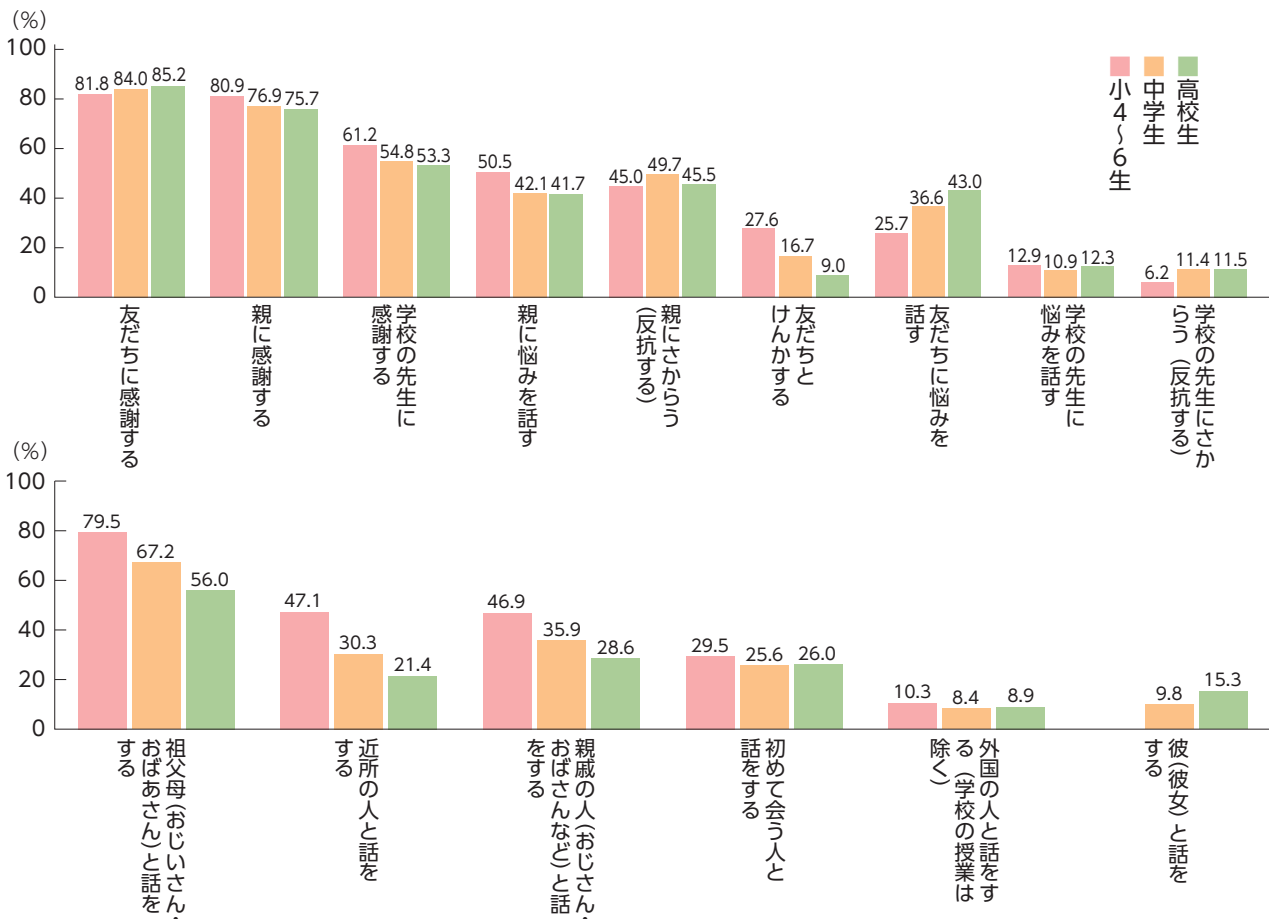
中学生・高校生では「友だちに悩みを話す」ことが増え、自分1人ですごす時間が長くなる

友だち・親・先生に「感謝する」割合はどの学校段階でも高く、親・先生に対しては小4～6生でもっとも高い。また、「友だちとけんかする」割合は学校段階が上がると低くなるが、「友だちに悩みを話す」割合は高くなる。一方で、「学校の先生に悩みを話す」「学校の先生にさからう(反抗する)」割合はどの学校段階でも1割前後である。祖父母や近所の人、親戚の人と「話をする」割合は、小学生でもっとも高く、中学生・高校生では低くなる。高校生は「家族と過ごす」時間が短くなり、「自分1人ですごす」時間が長くなる。



いろいろな人とのかかわりについて、次のようなことがどれくらいありますか。

子ども 図3-4 いろいろな人とのかかわり(学校段階別)



あなたはふだん(学校がある日)、次のことを、1日にどれくらいの時間やっていますか。(学校の中でやる時間は除いてください。)

子ども 表3-1 人と過ごす時間(学校段階別/平均時間)

	家族と過ごす	友だちと遊ぶ・過ごす	自分1人ですごす
小1～3生	3時間26分	59分	11分
小4～6生	3時間50分	1時間14分	36分
中学生	2時間57分	54分	1時間15分
高校生	2時間12分	50分	1時間50分

注1 「よくある」+「ときどきある」の% (図3-4)。

注2 「彼(彼女)と話を」は小4～6生には尋ねていない(図3-4)。

注3 平均時間は「しない」を0分、「5分」を5分、「4時間より多い」は300分のように置き換え、無回答・不明を除いて算出した(表3-1)。

注4 小1～3生は保護者の回答(表3-1)。